



社会貢献  
大賞

## 大阪府遊技業協同組合

「在阪外国人留学生に対する  
奨学金の支給等支援」事業



大阪府遊技業協同組合理事長  
段 為梁さん

### 選考理由

社会貢献活動審査委員会 委員  
脇田直枝氏



希望と期待を持って日本で学んでいる在阪留学生に、平成3年より奨学金の支給をはじめ、住宅問題や事故被害など日常の諸問題にも支援の手を差し伸べ、また文化交流や企業見学などきめ細かな活動をされており、その長年にわたる民間国際交流の実績に対し、満場一致で決定いたしました。対日理解を深めるにはこのような長期的な視点に立った、継続的な取り組みこそ重要であり、世界平和に繋がる価値ある事業である、との評価でした。

## 在阪外国人留学生への経済的援助



昨年度の奨学金の受給証書交付式

大阪府下には、現在、7,000名近くの外国人留学生が在住しているという。希望と期待を胸に抱いて留学・研修のために来日する留学生だが、彼らを取り巻く社会的、経済的状況は決して楽観視できるものではない。留学生たちが安心して勉学や研究に打ち込むことができ、あわせて日本の文化や社会、日本人の考え方などに触れる機会を持つことができれば、国際化が進展する中で、国際交流や相互理解の第一歩となるのではないだろうか。

大阪府遊技業協同組合（以下、大遊協）では、社会貢献活動の一環として、1991年（平成3年）に財団法人大遊協国際交流・援助・研究協会を設立し、在阪外国人留学生および在阪外国人に対する支援事業を展開している。「日本に来る留学生は長続きしないという現状があったので、フルブライト留学制度のようなものがあればいいのではないかというのが発想の原点」と語るのは、大遊協の段為梁理事長。

事業の柱となる在阪留学生に対する奨学金の支給では、大阪府下にある37大学から希望推薦を受け、財団が委嘱する8大学の教授などで構成される奨学金受給者選考委員会が厳格な審査を行い、受給者を決定している。支給額は、大学学部生で月額5万円、大学院生で月額7万円となっている。

2007年の実績によれば、奨学金を受けている留学生は、大阪府下の21大学、31名。学部生、大学院生あわせ

## と国際交流・相互理解の場を提供

た支給総額は2,052万円となっている。国籍別では中国18名、韓国4名、バングラディシュ3名など、東南アジアからの留学生を中心に、スイス、ロシアを含む合計9カ国に及ぶ。発足当時から現在まで、17カ国、204名の留学生が奨学金の支給を受け、その総額は3億483万円に達している。

単に奨学金の支給にとどまらず、生活を含めたキメの細かい支援を行っているのも、この事業の特徴である。たとえば日常生活や勉強するうえでの不安に対し、精神的な相談窓口機能を果たすよう、留学生を招いての座談会や交流会を開催し、留学生同士の情報交換や親睦の機会を提供している。「留学生親睦交流会」では、奨学生や奨学生OB、海外留学経験のある日本人学生、各大学で留学生を担当している関係者などを招き、講演やゲーム大会などを実施

し、親睦や交流を図った。さらに、留学生や在阪外国人が犯罪や事故に巻き込まれて被害にあわないよう、緊急



留学生との座談会の模様

連絡方法などを記したポケット手帳を各大学を通じ配布したり、外国語の堪能な専門相談員を置き、各種のトラブルや悩みごとの相談にのっている。また、企業・社会見学を実施し、日本の防災技術や環境先進技術などを見学してもらったり、茶道、将棋、邦楽演奏などの日本文化を体験できる交流会に参加を勧めるなど、日本の文化を理解する機会を提供している。

奨学金を受けた留学生からは、「経済的な心配に煩わされることなく勉強に専念できた」、「世界友好を具体化するもの」、「日本人との交流の時間を多く持てた」、「大阪は第二の故郷」、「この経験を生かして自国と日本の架け橋になりたい」といった声が多く寄せられていることから、この事業が留学生たちの経済的負担を減らし、日本理解

に役立っていることがうかがえる。

そもそも、この財団の設立の基礎となったのは、1972年（昭和47年）にスタートした『善意の箱』事業である。これは各パチンコホールで商品交換の際に生じる余り玉を顧客の善意により拠出していただいたものと、ホール内に落ちている玉を収集したものを等価交換し、それを基金として、組合本部が大阪府、大阪市、NHKなどに歳末義援金として寄贈したり、組合支部が地域の自治体や社会福祉施設などに寄贈する事業である。

その後、この事業積立金の一部を基本財産に設立されたのが、財団法人大遊協国際交流・援助・研究協会である。「この財団設立が、大遊協による社会貢献への恒久的取り組みの意思を組合員に明確に示すエポックメイキ



「レッツ茶の湯」に参加して日本文化を体験

ングとなった」と語るのは、善意の箱・社会貢献委員会委員長を務める河本勝弘さん。

大遊協では、全国に先駆けてセルフ商品（障害者が福祉施設や福祉作業所で製作した商品）の共同販促事業を推進したり、何らかの事情があつてクリスマスを家で迎えることができない福祉施設の子どもたちを招いて「未来っ子カーニバル」を開



河本勝弘さん

催するなど、社会貢献活動に積極的に取り組んでいるが、この財団は、それらの活動の象徴として機能している。「単に資金や物品を提供するだけでなく、体を動かし、汗をかくことで、組合員自らがどう社会貢献活動に関わって



奨学金卒業生と選考委員の座談会

いけるのかを常に模索している。昨今の厳しい状況の中で、組合員の意見集約や意思統一を図っていくことの難しさに直面しているが、社会貢献はわれわれの責務であり、やりがいのある事業だ」と、河本さん。

在阪外国人留学生に対する奨学金支給等支援事業の今後の課題は、支援を受けた留学生たちが帰国後にどのような道を歩んでいるのか、可能な範囲で検証できる方策を考えること。それができれば、さらに効果的で充実した支援事業が展開できる。また、現在は大阪府下在住の留学生に限られる支援事業だが、近畿圏の他府県の遊技業協同組合などに呼びかけ、この活動を広げても可能だと思われる。いずれにしろ、日本に留学してよかったという留学生が一人でも増えることが、世界での日本の地位向上につながることは間違いない。

奨学金の国別支給人数(単位:人)  
平成4年度～平成19年度まで

国 籍		国 籍	
中国	137	ネパール	1
韓国	42	モンゴル	2
米国	1	バングラディシュ	4
マレーシア	4	フィンランド	1
オーストラリア	1	イラン	1
ミャンマー	1	インドネシア	1
タイ	3	スイス	1
ベトナム	2	ロシア	1
スリランカ	1	計	204

## 奨学生卒業文集から

### 留学経験を生かして

摂南大学大学院卒業生  
(出身国:中国)

充実して過ごした時間は、いつも短く速く感じられる。3年間の日本での留学生生活を振り返ってみると、あっという間に終わったという感じです。

周りの留学生たちは、大体、学校、寮、アルバイト先の間を行き来し、大変忙しい毎日を送っていたのに、私の場合、他の留学生より勉強で大半の時間を過ごすことができ、本来の日本留学の目的を達成できたといえます。これは、大遊協の奨学金をいただいたおかげです。さらに、日本人との交流の時間を多く作り出すことができました。本当に心から深く感謝しています。

日本留学で感じたことは、先進国だけに、社会システムのインフラが行き届いていることや経済大国の成り立ちなどがわかるようになった。思いやりを込めて、よりよい製品を生産し、相手を喜ばせるサービスを提供する経営理念等で、今日の強国日本になったと思う。

日本は、自然災害が多いことで、花見等、今ここにある瞬間の美しさを大事にし、島国だけに盆栽等、場所を取らない楽しみやお菓子を食ぶるときに五感で味わうそれが、日本特有の美意識になったと思われる。自然環境の中で、収納、建築、防災等、いろいろ日本なりの知恵も生まれてきた。こんなところを中国は、日本から見習うべきではないだろうか。

私は、この3年間、日本の出来事を知り、見聞を広め、日本文化を深く理解することによって、日本と一緒に成長できたと感じている。これからも日本語と日本文化を勉強し続けたい。それに、日本留学の経験を生かして、日中貿易をやりたい。日本のことを中国で広め、日本の経営、管理を中国へうまく伝えられるよう頑張っ、中国と日本の架け橋として力を尽くしたい。中日両国は、永遠の友好関係であるように祈っています。

(平成17年度卒業)

## 社会貢献活動への継続的取り組みで注目される大阪府遊技業協同組合

第1回目の社会貢献大賞「未来っ子カーニバル」、第2回目の社会福祉賞「授産施設支援事業」に続き、3年連続で顕彰事業受賞に輝いた大阪府遊技業協同組合。「社会貢献の柱となるのは、あくまでも地元で継続してできる事業」(段為梁理事長)というように、「継続性」を基本に据え、組織を挙げて社会貢献活動に取り組む姿勢は、同業団体や福祉関係者からも高い評価を得ている。

効果的な貢献事業を可能にしているのは、組合のもとに各種の委員会を置き、それぞれが主体的に事業プランを作成し、ダイナミックに活動するという姿勢が貫かれていることが大きい。

現在、7つある委員会の中で、社会貢献活動を担っ

ているのが「善意の箱・社会貢献委員会」である。善意の箱・社会貢献委員会では、望まれる社会貢献活動の充実強化、セルフ商品の全店導入、効果的な善意の箱事業資金の活用を事業ポイントに掲げ、さまざまな取り組みを展開している。さらに、組合傘下の大遊連青年部会、財団法人大遊協国際交流・援助・研究協会と有機的なネットワークを形成することで、社会貢献活動の“広がり”と“深まり”を具体化している。

その活動に対する社会的認知が進むことで、遊技業全体のイメージ向上にもつながることが期待される。今後も、大遊協の社会貢献活動から目が離せない。

### ◆未来っ子カーニバル

青年部会の社会福祉活動の中核をなす一大イベント。さまざまな事情でクリスマスを家で迎えることができない大阪府下の福祉施設の子どもたちに、クリスマスの楽しい思い出をプレゼント。昨年で21回目となった。



第21回未来っ子カーニバル



子どもたちに楽しい思い出をプレゼント

### ◆セルフ商品の販売促進

大阪府授産事業振興センターと共同で実施されている、障害者自立支援のための社会福祉事業。障害者が福祉施設や福祉作業所で作るセルフ商品を、景品としてホールに導入することに取り組んでいる。青年部会が中心。



書や絵のカードもあります



セルフ商品の中にはもちろん食品も

### ◆強盗事件発生防止・子どもの事故防止対策

生活安全対策委員会が中心となった取り組み。ホール事務所・景品交換所での強盗事件発生を防いだり、子どもの車内放置事故を防ぐための防止マニュアル策定や店内放送、巡回強化などを実施している。



「強盗防止マニュアル」



「子供事故防止対策マニュアル」

上記マニュアル各3000枚をホールに配布